



雛人形約1000体を並べた雛飾りが26日、須坂市の「世界の民俗人形博物館」にお目見えした。写真、横山就平撮影。

高さ6呎、幅約7呎の30段に昭和40年代の人形を中心に展示。さらびやかな衣装に白い顔の人形が赤い雛壇に映える。家庭で使われなくなった人形を同館が譲り受け、2007年から雛祭りの前後に飾っている。

ハートで温かく

同館のある「須坂アートパーク」はカップル向けの「恋人の聖地」とされ、雛壇のほんぼりもハートの形に置いた。パーク内の別の展示施設でも、江戸時代から現代までの雛人形計約5000体が飾られている。同館係長の加藤広明さん(41)は「昨年は震災などで大変な年だったけれど、ハートを見て温かい気持ちになってほしい」と話す。展示は4月22日まで。